

平成25年度北海道小学校校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：札幌市地区
- 2 事例報告学校名：札幌市立豊園小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 山脇 栄
- 4 キーワード：地域と共にある学校づくり
危機管理に関する取組

地域と共に進める交通安全

1. はじめに

平成19年5月21日午後2時5分頃、札幌市豊平区美園2条6丁目付近の交差点で、青信号に従って横断歩道を渡ろうとしていた本校の2年生の男児が、信号を無視して発進したトラックにはねられるという痛ましい事故が発生した。

男児は、近くの病院に搬送されたが、脳挫傷が原因で死亡した。

道路は、片側1車線の直線区間であり、当時横



事故現場

断歩道から20m先で道路工事が行われており、片側交互通行となっていた。これに伴う小規模な渋滞が現場付近で発生してお

り、トラックは、横断歩道の中ほどで停止していた。

男児は、信号が青になったことから車の間をすり抜けるようにして横断を開始。トラック運転手は前の車が動いたことから信号を確認せずに漫然と発進し、男児をはねた。

本校では、この痛ましい事故を受けて、月命日の21日を「安全の日」と設定し、命の尊さや交通安全について指導を継続している。

また、毎年5月21日には、当時の事故の状況を子どもたちに分かりやすく伝え、風化させないように努めている。

2. 地域との交流

①豊園っ子を守る会

本校では、スクールゾーン実行委員会の他に、「豊園っ子を守る会」という安全に関わる組織が併設されている。

豊園っ子を守る会は、年に4回会議を行い、そのうち1回目と3回目はスクールゾーン実行委員会を兼ねて行っている。

参加者は、学校側から校長、教頭、教務主任、保健主事の4名。PTA役員と環境委員。地域からは顧問として各町内会長の皆さんにお越しいただいている。本校校区は、豊平区と白石区の両方にまたがっているため、両区の地域安全課の担当者やまちづくりセンター、白石警察署、豊



豊園っ子を守る会総会

平警察署、スクールガードリーダーやスクールガード、交通指導員3名など合わせて40名近い出席がある。

②学期はじめの登校時指導

3名の交通指導員は、児童登校日、毎日、所定の場所に立って子どもたちの安全を見守っている。

私たち教職員は、学期はじめの3日間5つのポイントに立って、子どもたちの登校を見守っている。



朝の交通指導

また、PTAの環境委員は、5つのポイントに5日間立っている。教職員とPTAはなるべく重なりがないように立っているの、子どもを見守るポイントは増える。また、「美園交通安全母の会」が、新1年生に安全祈願のプレゼントを配る他、登校時間に合わせて街頭に立ってくださっている。町内会の皆様は、青色灯をつけた車での見回りの他、危険箇所に見守ってくださっている。

③交通安全標語

毎年夏休みを迎える前に標語の募集をしている。これは、交通安全の団体に送るだけではなく、



校門前の看板

スクールゾーン実行委員会でも良い作品を看板にして交通安全の意識を高める取組を行っている。毎年、100近くの標語が集まり、選考に苦慮するほど佳作が多い。

④下校指導・集団下校指導

毎月のはじめに各学年の担任が2~3方向に分かれて子どもたちと一緒に歩きながら下校を見守っている。

6月には、校区を13に分けて方面別集団下校を行っている。担任や担任外が一人ずつ引率するが、児童数が多い方面には複数で引率する。ミニ児童会館に行く低学年も多いので、ミニ児童会館の職員とも連携を取りながら進めている。

⑤緊急時保護者引取訓練

毎年10月には、危険回避体制レベル4を想定

して、引取訓練を行っている。

連絡網を使用して保護者に連絡をしたが、これまでの連絡網は不在者が間にいと次に繋がらないという欠点があったので、今回新たな連絡網を作成した。また、今年度は、札幌市で導入されたばかりの校務支援システムのPTAメールも同時に使用する予定である。

⑥PTAによる交通安全宣言

平成19年の事故を受けて、PTAでは、毎年各家庭に「交通安全宣言」の署名をお願いしている。交通安全の意識を高め、二度と交通事故が起こらないように宣言し、それを豊平警察署に提出している。

この活動は、豊平区でも広がっており、今では区P連の活動の一つになっている。

3. おわりに

平成19年に亡くなった児童は、生きていれば現在中学校2年生である。当時から勤務している職員も1名のみである。6年経って当時を知る保護者も少なくなっているが、本校を取り巻く情勢はあまり良くなっていないのが現状である。

校区は交通量の多い国道36号線と環状通、東北通を抱えている。また、白石区の南郷通を横断してくる児童も数名おり、決して安全とは言えない。

加えて、平成23年月寒地区に国家公務員住宅が建設され、児童数が100名ほど増加している。月寒方面から環状線に向かう道路は高低差があり、車のスピードが出やすい場所である。学校では、警察にガードレールの設置をお願いしているが、財政的に厳しいのなかなか良い返事をいただけない。

私たちは、PTAや地域の方々とこれまで以上に連絡を密にし、無事故の日を目指して取り組んでいく所存である。